

○赤十字社員醫師看護人の出張、
災者救護の爲め大日本赤十字社より救護長醫師大
森英太郎氏外看護人數名昨朝來着直ちに宮古地
方に向け昼夜急行にて出發

○醫師出張 西磐井郡一關町醫師千葉求氏は宮
古地方に岩谷堂町同及川榮氏は大槌地方に何れも
罹災民救護として出發

○各警察巡査の出張 黒澤尻警察署より二名
一間警察署より五名花巻警察署より二名沼宮内警察署より三名千厩警察署より五名は久慈釜石方面へ郡山沼宮内水澤の三警察署より十五名は大槌山田方面へ福岡警察署より六名の中三名は岩泉へ三名は大川目へ何れも出張

○警部出張 警部小崎豊氏は遠野へ出張
○久慈附近の慘状 十六日付を以て淺沼郡長を
より縣知事より對する上申書に曰く
昨十五日午後第九時頃南九戸郡久慈町大字門前
に方々突然激雷の如き音響を聞くや否や該町久慈
慈川沿ひたる場所に暴く俄かに出来事之候は

大海嘯大慘害彙報

各郡の大海上嘯たる人命を害ふこと殆んど一萬全町村覆没流離其形跡を留めざるもの亦少からず幸ひにして万死の中一生を得たるものも或は傷痍に悩み或は飢餓に迫られ鰥寡孤獨其特願する處抜失ひ居るに家をく食ふに食なく着るに衣あく悲慘の極酸鼻の至り實に前代未聞の大變に屬す苟くも帝國臣民たり全胞たる者は豈袖手傍観するの秋あらんや況んや全一の治下より全一の縣民たるもの庶や奮ふて賑恤扶助の事真よ刻下焦眉の急務なり本社自ら端ら毛率先以て義金募集の勞を執り聊か全胞相恤の微旨を徹底せんと仰ぎ願くハ大方慈仁の諸氏切に此舉を賛成せられ多少に拘らず續々義捐あらんとぞ汝即ち義金募集の手續とは左の如しと云ふ一義捐金は各自の隨意なるべし事一義捐金額は各の隨意なるべし事一義捐金募集の期は来る七月十七迄

ノ・活・劇・大・慘・言

●杜陵館に於ける原公使 同氏の一昨日上り直す
行にて歸京せられたる事は前號の紙上に記載せし
が同氏は出發前當市教育社會并び市内有志者の親
詣に應じて午後三時頃より杜陵館に臨席せらるゝ
々成辛前後修學の困難、時勢に暗く毎々人後に立
つを免れざりし事より曾て某老翁「正論以て己を
傷け」「又正論以て己れを致す」と氏に警告したる

し経験話より東北人別けて巖手縣人の忍耐に乏し
き例を擧げて幼稚の時代より人物を養成し三ツ兒の
魂百迄と云ふ主義の必要なるとを説かれ茶菴
談笑の間に會を閉ぢ夫よし有志一同停車場迄氏を
見送り一同氏の萬歳發唱へて前途の行を壯にしか
る云々

と聞き、該案は警察費外四件にして出席者は三田義正、鈴木文三郎、高橋嘉太郎の諸氏なりと、
◎修學旅行　巖手県立學校生徒第三年生十七名は二戸郡小鳥谷村大字中山三木軍馬育成所十三
本木支所にて署丸割去術研究の爲め来る廿一日より往復四日間の見込にて旅行するよ矣

去十五日午后五時より十七日午前までにかけ東京
地方より甲府、宮城、福島、石巻方面に合計百五十
回の地震ありたりては中央氣象臺乃調査などと
●醫術開業試験及第者　　本年第一回東京醫術開業試験を受ける者の中本月十一日試験委員長より
及第證書乃與付せられさる東北太左の如し
菅原　文龍(山形)　渡邊　新(山形)

大海嘯大慘害義捐人名

引の自由を失し一々困難致候被害の重もある様
は宮古町字光岸地一圓、向町、藤原、舊館の幾部
鍬ヶ崎町へ殆んど全部死亡の害を被れり死者の數
は未だ詳細取調ふる能はざるも百餘名を超へなる
ものと被考候其被害が多く鍬ヶ崎町に在て甚
しきに至ては一家十三名舉つて生命を失ふゆ
酸臭に堪へざる慘況なり其他負傷者數知れず不取
敢鍬ヶ崎町に二ヶ所乃救護所設け宮古町は當異
を救護所に充て醫師を来て治療に從事せしり置を
たり此地部内沿海各處も大に死亡死傷ありたる由
にて就中田老村の如を以て全村一戸を残さず流亡
たゞどの事にて署員出張取調中に有之詳細の狀
況は逐々報告可及候得共取急ぎ概況迄云々

◎盛町附近の慘状 気仙郡内は盛町最も慘狀甚
しき旨の電報に接せしは實際は盛町にあらずして
其の附近の各村落の誤りにして盛町は別より異狀甚
なき由なる箇の勿卒の際の誤報と認むるより外に
あし扱ては附近の慘狀餘聞くに十五日午後九時頃
微細奇る地震と同時に三丈餘の激浪一時に來り海
面民屋潰壊人畜死傷無算の有様にて大船渡村に於
ては戸數百戸以上潰壊百五六十名の死傷あり稜里
村は全二百戸近く人畜死傷無算末崎越喜來其他沿
岸の各村實に名狀をべからざる慘害ありとぞ

◎罹災者救恤 昨日福岡市教員會に於て本縣下海嘯罹災者救恤義捐金として金三十圓を據集し右配布方を其筋へ依托するおとに決議したり

○慰問状發送 尚ほ同罹災地に於ける尋常及高等小學八十餘校へ宛盛岡市教員會より昨日慰問状を發送した

○罹災救恤事務所 を臨時に縣廳内へ設けられ委員を定めて事務を執らるゝ由

○醫師 本日頭出張救護に從事せらるゝ由

○救恤義捐金募集 及川良吾氏は大川口地方へ出張被愈は率先して罹災者救恤義捐金募集に着手せしが此の刻下焦眉の急ある際し同胞縣民たるもの固より袖手傍観すべきにあらず相率へ相促し齎ふて之れが救恤扶助に從事せざるべからざるは何人ぞ雖も擬議あるべきにあらず而して此の場合義捐金募集の方法は及ぶ限り便宜を尙び其の區域ば出來得る才擴張し以て全胞相恤の大義務を遂達せざるべからず是れ最も賭易きの道理にして吾人不肖自ら端らず至誠を布きて志士仁人に訴へつゝあるの本趣意實に此に存まる所あり吾が縣内有力の諸氏亦茲に視る處極り昨來當市役所に會し全縣勢力を糾合致して此の刻下の急に應せんと期玄邸ち亦義捐金募集

常小學校並全分教場 備品として礦物標本八十五 個寄附の件に就て紫波郡長岡村吉田吉准氏は同長	
岡村人民四百六十人へ無料種痘の件にて北閉伊郡	
小川村表綿區穴澤區小川尋常小學校々舍として建 家一棟寄附の件みて孰れも木杯一箇宛下賜せられ	
たり	
氣象 (六月十八日午前十時觀測)	
○ 盛岡相場	
◎ 仙北町口	玄米上八圓廿五錢○ 同中八圓五錢○
同下八圓九拾五錢○ 白米上九圓錢廿○ 同中九圓○	
同下八圓七拾錢○ 玄糯米上八圓九拾錢○ 同中八圓	
五拾錢○ 同下八圓三拾錢○ 白糯米上拾圓五錢○ 同	
中九圓五拾錢○ 同下九圓三拾錢○ 精粟六圓四拾錢	
○ 大豆五圓七拾錢○ 小豆六圓五拾錢○ 大麥參圓四	
四拾錢○ 小麥五圓貳拾錢○ 捣麥六圓五拾錢○ 大角豆	
豆七圓二拾錢○ 白大角豆九圓○ 蕎麥三圓四拾錢	
○ 茅町口	玄米上八圓二拾錢○ 同中八圓拾五錢○
同下八圓拾錢○ 白米上九圓二拾錢○ 同中九圓○ 同	
下八圓二拾錢○ 玄糯米上八圓五拾錢○ 同中八圓四	
豆七圓二拾錢○ 同下八圓貳拾錢○ 白糯米上九圓七拾錢○ 同	
中九圓五拾錢○ 同下九圓○ 精粟七圓○ 大豆五圓五	
六圓○ 小豆七圓○ 大麥參圓八拾錢○ 小麥五圓拾錢	
六圓○ 捣六圓七拾錢○ 大角豆六圓七拾錢○ 白大角豆八	

付早速所員一門現地に駆け救助に従事致候
は野田村市街並の中野村字小子内原子内も同様
海嘯の趣申出候に付是又更員出張爲致夫々救助
に從事致居候右は早速電報申報可致の處右幾災
の爲め電信不通に相成到底急速申報致兼ねたる
次第に有之候而して門前村出張中の酒井技手足
部負傷候得其生命は別條無之旨下治療中に有之
候尙被害實況死傷者の數は追て取調の上詳細具
申可仕候得共門前家屋之數戸を残玄悉く破壊死
傷亦九分通に有之實に慘状甚極む云々

◎大川目附近の被害 大川目警察署より其筋より
に達したる十六日付の報に曰く六月十五日午後九
時前後二回の地震ると同時に激浪襲來をること
四度宮古鍬ヶ崎兩町は一面激浪の下より埋没せられ
老幼男女逃るゝ途あく怒濤に巻かれて流されるゝあり
り或は流亡家屋の中に壓せらるゝ程悲鳴號泣目
も當てられぬ慘状を現出せり、宮古町流亡家屋三
分一、鍬ヶ崎町は殆んど全部流亡せし署員故各所
に配置し人命救護に必死の力を盡くし老幼を援け
しこと數十人をもと雖も怒濤山岳崩壊が如き海
嘯にして其猛烈なる慘状を筆紙に盡くし難く加と
るよ暗黒咫尺辨せず人命救護の上に於て進退既

戸を餘し他は皆流失人畜死傷推知すべし繩笠村は流失家屋凡そ百戸死亡者二十名船越村大字船越へ流失戸數凡そ九十四戸にして僅かに二戸を餘せるのみ死亡者數凡そ四百五十人生命を全ふせるを得たるも乃百三十二名同大字圓濱の全村の家屋大抵流失隨ふて死傷者も夥しからん同大字大浦の流失出しと分配する等人心洶々たり斯く記したりて又家屋五戸にして死傷者なかりしは何より右に就き山田町に於ては罹災者避難所を五ヶ所に設け焚き茲に同校教員に佐藤陣なる人あり今しも激浪怒濤の凄ひき勢ひにく渦まき来るや同氏は敢て狼狽の体もなく直ちに校内奉置の御真影を數町距りたる一報あり山田町又於て潰倒家屋より火災を生じ焼死者も多くありしとぞ

◎激浪中に御真影を完全の場處に奉置を 氣仙郡越喜來村は今回凶變に最も慘状甚極めたるが茲に同校教員に佐藤陣なる人あり今しも激浪怒濤の凄ひき勢ひにく渦まき来るや同氏は敢て狼狽の体もなく直ちに校内奉置の御真影を數町距りたるとするを見るより氏は奮躍して激浪中に飛び入ア首尾よく之を救ひ出し夫れより直ちに村内慘状をれを同氏の愛兒某が水中にあり將に捲し流されるとするを申したりとは天ツ晴れの心懸けあり因に其筋に具申したりとは天ツ晴れの心懸けあり因に記を同村素封家南部屋並屋讓右衛門氏方は主一人を殘生たるのみにく家族は溺死家屋ば流失し

金千圓	村井	彌兵衛
金五百圓	佐藤清右衛門	
金三百五拾圓	菊池	弟三
金貳百五拾圓	金田一	勝定
金貳百圓	服部一	三
金五百圓	すゞ子	
金五百拾圓	野村茂右衛門	
金五拾圓	太田上	會社
金五拾圓	北上	
金三拾圓	瀬川三田	
金三拾圓	井上八幡	
金三拾圓	高橋嘉吉	兵衛
金五圓	鈴木光義	正興
	上村才六郎	
●木杯下賜	江刺郡石澤尋常小學校訓導木村多	
平全郡廣淵村千葉和十郎外十六名(各通)の諸氏は田原村小田代尋常小學校甚		
石澤尋常小學校建築費として全郡田原村紺野周平		
外四名(各通)の諸氏は田原村小田代尋常小學校甚		
本財產として稗貫郡里川口町梅津喜八外六名(各		
通)の諸氏と全郡里川口區有財產として南九戸郡		
山根村大字深田全尋常小學校新築費として孰も全		
員各附の印にて前告手郡米内村川口秀俊氏米内義		

鈴木	重喬(巖手)	鈴木	千松(福島)
渡邊	開吉(福島)	佐々木	運吉(—)
長谷川	亨(福島)	國分	義房(北海道)
新妻	由五郎(福島)	瀬川	平造(巖手)
八島	涉(山形)	大竹寅次郎(福島)	
千葉	泰四郎(宮城)	岩隈乙次郎(北海道)	
安本	仁藏(巖手)	渡邊	政雄(巖手)
目黒	義平(宮城)	森	重次郎(福島)
長谷川	富士太郎(福島)		